



平成16年度視聴覚教育総合全国大会
「地域ネットワークの構築」

2004.11.29

市町村の地域情報のデータベース化 ～「知」のデジタルアーカイブス～

(財)岐阜県教育文化財団 生涯学習センター 後藤周太郎



1 実践の概要

■ バーチャルミュージアム

県内の市町村博物館等の所蔵資料を アーカイブ化

■ 「地域資料」

まるごと河合村 まるごと飛騨の里など

■ 暮らしシリーズ

12年度「雪国の暮らし」 13年度「川と暮らし」

14年度「山と暮らし」 15年度「温故知新」



2 市町村の情報コーディネイト

- 情報を一番良く知る
地元の生活での「知」
情報収集だけでなく、素材収集にも貴重な人材



- 灯台もと暗し
意外に知らないのが隣の町
同じ県内より、都市部のことを良く知っている



3 アーカイブする意味

- 集める (Collect)
↓ 地域の人々の参加 (情報収集、撮影)
- つなげる (Network)
県民: ひだみのビデオレポーターズクラブ (岐阜放送)
↓ 学校教育: **岐阜県まるごと学園** (県教育委員会)
↓ NPO **長良川水文化デジタルアーカイブ** (岐阜女子大学他)
- 創造する (Create)
学習素材として活かす
リンクで関連情報へ (意外な情報源)



4 Webにのせる意味

- html化
デジタルカメラやポップコーン
情報の整理のしやすさ、蓄積が容易
- 検索エンジン
意外な情報源
[yahoo](#)や[google](#)検索により
- 全世界に情報発信
[Wander沖縄](#)、[東京国立博物館](#)
事前の貴重な情報源



5 技術の進歩とこれからのアーカイブ

- 生涯学習社会での可能性
情報収集だけでなく、撮影から編集まで専門家以外の手で

その時々々の資源(予算、人材、規模)に合わせたアーカイブ

CDなどへの固定化からWEB蓄積型へ
成果物は必要ではない
フォーマットなどを統一し、ネット上で素材収集・公開
県民・学校・NPO法人などとのさらなる連携